

6月30日(水)午前16時30分 CRT スタジオで収録

大学入試、偏差値時代終焉の足音。推薦・総合型が過半に

開倫塾

塾長 林明夫

1. (1) 日本本経済新聞 2022年8月15日電子版「大学入試、偏差値時代終焉の足音、
・推薦・総合型が過半に」
(2) 日本経済新聞 2022年8月21日電子版「偏差値に代わる評価軸どこに、
・大学入試の今に迫る」
2. (1) 10か月前の新聞記事ですが、すこぶる示唆に富みます。
(2) 大学入試の倍率が、国公立でもどんどん下がり、2倍前後となっています。
(3) これから、10年、15年、20年後の大学入試は、18歳人口が、激減してきますので、国公立大学も、2倍前後の倍率で入学できるものと推測できます。
3. (1) これに加えて、優秀な学生の早期確保のために、私立大学だけではなく、国公立大学でも年内入試が盛んになります。
(2) そこで、高校1年時から、キチンと全教科学び、全教科定期試験の勉強を怠らなければ、国公立大学、私立大学の多くに、年内入試で合格を果たすことができます。
(3) 18歳人口の激減のため、大学は何としても定員割れを避けたい。その結果、年内入試が盛んになり、大学進学を希望する人にとっては、夢のような時代が到来してきました。
4. (1) ただし、大学の教育・研究内容は、時代の急激な変化を反映して、ますます国際化、多様化・専門化し、学生の学力評価はますます厳格化することも容易に想像できます。
(2) 低学力のまま、学生を社会に送り出すことは、納税者の理解を得ることができません。また、大学は、海外からの留学生なしでは経営が成り立ちません。
(3) 大学は国内だけではなく、国際的な競争にさらされていますので、学生への評価は厳格にならざるを得ません。
○ボーとしていると、単位を落とし、留年、退学の運命が待ち受けています。
5. (1) そこで問題となるのが、複雑化・高度化する大学の教育・研究内容に耐えられる「学力」をどのように大学進学前に身に着けるかです。
(2) これに備えさすために、2025年からの PISA の英語力テスト導入にも備え、大学共通テストの英語ははじめ全教科が、「読解型」「熟考型」「課題発見型」「課題解決型」に出題傾向

を大きく変更させたと思われます。

(3) 開倫塾では、従来通り、大学共通テスト、大学独自テストに備え、高校 1 年生から本格的な受験指導をすると同時に、年内入試突破に備え、高校の授業内容を中心に、基礎基本を指導し、全教科定期試験で 100 点を目指すことや、3 大検定をコツコツ取得させ、校内の学業成績を大幅アップさせます。

6. (1) これに加え、「辞書・新聞・読書・図書館」に親しみ、読解力とともに、批判的思考能力、思慮深さも身につけさせます。

(2) 論理的思考能力、推論能力などを鍛え、問題発見能力、問題解決能力も鍛えます。

(3) 高等学校の新学習指導要領では、「探求型学習」の時間が設けられ、高校生自信が、「問題を発見」「その問題を解決するにはどうしたらよいか」話し合い、行動に移すことが、授業の一環として奨励されています。

7. (1) 塾長は、何回か、国学院久我山中学・高校の「探求型学習」に出張授業の講師としてお招きいただいたことがあります。

(2) また群馬県立高校の先生方と、群馬県総合教育センターで、先生方の課題の発見、課題の解決に向けた、話し合いに参加したことが、何度か、あります。

(3) 来週は、栃木県立宇都宮中央高校第二学年の「探求型学習」の時間に講師として参加の予定です。これから、宇都宮中央高校のような大学進学が盛んな進学校でも、「探求型学習」が年間を通じて行われることと、推測されます。

8. (1) ぜひ、中学生、高校生とともに、現代社会の問題とは何か（問題の発見）、その課題をどう解決したらよいか（問題の解決）について、話し合い、考えてください。

(2) 高校進学、大学進学の、最も重要な準備となるからです。

(3) 教科の学習とともに「課題発見」「課題解決」の方法について、高校 3 年間かけて、じっくり取り組むのも、これからの、大切な進学指導です。

9. (1) 「辞書・新聞・読書・図書館」に親しむことは、大学進学、専門学校進学、大学院進学にとって、最重要の「進学指導」です。

(2) 辞書に親しまない、新聞に親しまない、読書に親しまない、図書館に親しまない状態で、大学・専門学校・大学院・社会に塾生を送り込まない。

(3) 読解力なしでは、TOEIC も SPI も、解くことはできないからです。大学・専門学校・大学院のテキストや論文、インターネットの情報を正確に読み解き、仮設・検証することはできないからです。